

現場に来て初めてわかること

たかのひでゆき
高野 秀行

内容理解

この文章で筆者は、ソマリアでの体験と感想を語り、そこから得られた新しい見方を読者に提示している。本文を読み直しながら、空欄に入る適切な言葉を補ってみよう。

難民の写真

・戦場カメラマンだった瀧野さんは、写真を↓赤字を抱え、ソマリや取材を生きがいとして発表できる¹ [] を失い、趣味で写真² [] いる自分も [] だと聞いて、感心する。

・ソマリアの難民の写真を見せてもらう。↓やっぱり、みんな、笑顔だ。別に悲惨ではない。

・ケニアの³ [] キャンプやモガディ↓飢餓や難民のイメージとは違って、

シユ市内のキャンプでの経験

・瀧野さんが病院で撮った写真(背中一面が↓ [] の人が多い。

焼けただれた子供を抱いた若い母親がにこ [] に出会い、ほほえむのだろう。

にこしている。) [] 6 [] である。

・タイ・ミャンマーの国境地帯で、カメラに

ほほえんだ難民。

(悲惨でかわいそうな人たちの写真・映像は、同情を集めるため

の作られたイメージ、⁷ [] 「 [] 」である。

悲惨な被写体を探し、たまたまうつむいたところを撮影している。)

大やけどで死ぬかもしれない子供を抱いてほほえむ母親の写真のほう
がずっと現地の困難さをリアルに伝えている。

語句

この文章の中で使われていた次の言葉を使って、短文を作ってみよう。

撤退(二五八・九)

疑念(二六〇・三)

純然(二六一・五)

力説(二六一・17)

私の勘違い

・イスラム圏では犬は「不浄の動物」とされ、↓犬が嫌われ猫は愛されていて、不公平。忌み嫌われている。

・ハイゲルサでも犬が虐待され、犬を撮影しようとする、石を投げて追い払ってしまう。

モガディシヨでは犬好きが面白がられ、犬を見かけると教えてくれた。

・旧アル・シャバーブ支配区のパカラ市場跡は、ゴーストタウンとなり、犬がたくさんいる場所を見つける。

・翌日、同じ場所に行った瀧野さんの話。「異臭がして、ほぼ骨だけになった人間の死体、近くに¹⁰ が落ちていた。」瀧野さんの写真には、軍服と背骨のような骨が並べられて撮影されていた。

..... 私の感想・新しい見方

8 「ムハンマドが猫派だったから」と解釈。な犬を撮影するとは夢にも思わならしい。

9 「犬天国じゃないか！」感動して写真を撮った。まつてきたのだろうと推測した。食べ物がなだらうと、心配もした。

イスラムでは犬を「不浄の動物」とする理由が少し飲み込めた。遺体の損傷を許さないイスラムにとっては印象が悪すぎる。

「すごいですね……」とつぶやくのがせいぜいだった。

要旨

現場に来なければわからないことは多い。希望に沿わない現実をほろ苦く味わうときもある。

筆者の考えの中で最も大切と思われることを、指定された言葉を使って、百字程度の文章にまとめてみよう。

〈指定語〉——プロパガンダ・現場・リアリティ

発展

次の中で興味を持った事項について、図書館の書籍やインターネットなどを使って調べてみよう。

- ・戦場カメラマンとは、どのような仕事か。
- ・難民キャンプとは、どのようなところか。
- ・イスラム圏で、猫と犬はどのように扱われているか。

100